

板付ドリチャン倶楽部

~「身近なまちなか、まちかどのランドスケープ」 創造の試み



はじめに

当社は、公園緑地計画設計とともに都市計画・まちづくり・景観調査などを主な業務としている。公園設計から総合計画策定までワークショップ手法を用いる業務が多く、地域やNPO、自治体等の住民参加活動や研修の講師・アドバイザー派遣なども行っている。環境形成のみならず、常に、福祉・介護、出産・子育て、子どもたちの安全・教育、生涯学習・団塊の世代への対応、防犯・防災、コミュニティ・地域自治など様々な分野の知識や活動経験が求められる。

数年前、こうした当社の特性を踏まえた新規事業のアイデアとして「公園前食堂チェーン」を考え、平成18年（2006年）6月から平成20年（2008年）10月に至る2年5ヶ月、事業の研究及び社員の研修を兼ねて、そして当社の社会貢献として「板付ドリチャンク倶楽部」という名称で試行した。またその事業展開の中で、「天神山公民館園芸イベント」という出張事業を受託した。以下に、これらの事業内容を紹介する。

まだまだ研究段階で最終的に事業化に至らず恥ずかしい限りだが、一定の期間、民有空間を対象に緑化及び多様な人々の活動をもって「身近なまちなか、まちかどのランドスケープ」を創造したと考え応募した。公園緑地業界の将来検討の材料の一つになれば幸いである。



始まりは「公園前食堂チェーン」の“夢”

少子高齢化、価値観の多様化が進展した今日、家庭での調理・団らんは減少し、時間や趣味のあう仲間同士での食事や交流の場の需要が高まっている。いざれ調理人を雇い、外食が多い東南アジア諸国のような食文化が到来する可能性もある。

一方、ワークショップの場などを通して「公園が利用されていない、危険である」といった意見を頂戴することが少なくなく、公園緑地行政に関わる者として残念でならない。経済や農業との関係や地域エネルギーの活用など、既存制度を超えた利用を研究し、微力ながら、豊かな暮らしに貢献できればとつくづく思う。

そこで、公園を活用しながら公園を管理するビジネスを考えてみたのが「公園前食堂チェーン」である。

塾帰りの子どもたち、趣味や美容話に熱中する母親たち、TVのナイター観戦に興奮する父兄たち、挨拶が健康話のお年寄りたち・・・。別々の朝を迎え、仕事も趣味も帰宅も別々だが、わが町の公園前食堂には立ち寄って家族やご近所さんとひとときを過ごす、そして特別の日だけはリッチに一家団欒。ライフスタイルの変化に対応し、地域・家庭をターゲットにしたリーズナブルで安心・安全・快適な場所と生活サービスを提供する「公園前食堂」ー夢見る中で「板付ドリチャソ俱楽部」は始まった。



■当社の新規事業“夢”アイデアシート（抜粋）

①事業名	安心・快適、心和む地域のリビング・ダイニング 『公園前食堂チェーン』	
②事業概要	<p>【地域：11/4 住区】 1,000 戸／1 店</p> <p>起業・経営支援、チェーン拡大</p>	
③商品・サービス	<p>塾帰りの子どもたち、趣味や美容話に熱中する母親たち、TVのナイター観戦に興奮する父兄たち、挨拶が健康話のお年寄りたち・・・。別々の朝を迎え、仕事も趣味も帰宅も別々だが、わが町の公園前食堂には立ち寄って家族やご近所さんとひとときを過ごす、そして特別の日だけはリッチに一家団欒。これらのライフスタイルの変化に対応し、地域・家庭をターゲットにしたリーズナブルで安心・安全・快適な場所と生活サービスを提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場所は、住宅地内の公園のそば。空家を改修。公園に向けてバルを設置し、公園もちゃっかり活用。 ・ 公園の清掃、花づくり、イベント、子供たちの遊び指導、防犯上の目配りもやれば喜ばれる。 ・ スローフード中心の毎日の食事の提供。居酒屋、宅配、清掃、クリーニング、各種代行、生活・医療・福祉相談、地域イベントの企画、各戸セレモニーの企画運営等。 ・ 1 店舗 1,000 戸程度の家庭を顧客とし密着したサービスを提供。 ・ チェーン機能により、供給を充実。24 時間対応。 ・ 食堂のおやじ、おかみには得意を持つ「団塊の世代」を起用。 	
④価格帯	1 サービス 1 コイン (大人 500 円、小人 100 円) ピュッフェ方式、トッピング方式	
⑤市場規模	1 店舗当たり、1,000 戸×2.5=2,500 人 500 円／人×2,500 人×10%×3 6 5 日≈50,000 千円 小学校区：1 万人、2 億円。30 万都市：30 万人、50%、30 億円	
⑥販売方法	・チラシ、宅訪、イベント、試食会、ニュース発行 等	
⑦製造・仕入方法	・専門業者と連携	
⑧事業戦略	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全、健康重視の食材、調理。 ・ 会話、相談相手、イベント、地域活動。 ・ ファンクラブ ・ 有名料理人、健康づくり名人と連携。 	



“板付ドリチャソ俱楽部 誕生”

板付ドリチャン倶楽部の活動

「板付ドリチャン倶楽部」は、平成18年6月、当社オフィス近くの空ビル（4F建。もと温泉センターで風呂やカウンターなどの面影が残る。）の1階を借りてスタートした。「板付」は地名で、早期稻作跡で知られる「国指定史跡：板付遺跡」を有する由緒ある地域だ。かつて「板付空港」と呼ばれた福岡空港の近くにある。「ドリチャン」は当社の若手スタッフが自らの勉強会に“夢”を描こうと名付けた「ドリチャン会」にちなむ。「ドリームチャレンジ」略語とのこと。「ドリチャンって何？」と尋ねられることが多い。興味を持ってもらえるのはうれしいが、答えると「なあんだ。」で終わり。「カルチャー教室&地域イベント広場」を目指して地域住民の方々をお誘いしたが、理解が進まずなかなか参加者が増えなかった。今は笑い話だが、空ビル利用の宗教関係と間違われるなど不審にも思われたようだ。今更だがネーミングが重要だったと感じている。

造園業界であることを活かして、花苗販売や園芸教室から始めることとした。ガーデニング専門の協力者を確保し、そのつながりでアレンジメントや押し花、アロマテラピーなどの教室に広がった。絵手紙、書道、陶芸や工作、草木染めなどの教室は当社社員が講師になった。また、地域の教えて欲しい、教えてみたいという要望を受けてパステル画や英会話、スクランブルブッキング、はぎれ手芸、着付けなどの教室を増やした。人気の教室は、着飾って食事や買い物に出かける同好会のようなシステムに替わってきた。一方、体力、筋力、自己治癒力を高め、メタボリック症候群や骨け防止にもなって元気に暮らせると、気功やソフトエアロビ、手話ダンス、フラダンス、グラウンドゴルフなどの健康づくり教室も人気があって長く続いた。約2年半、40種近くの教室を試みた。

平日は9時から5時までオープンし、時々は夜の講座も用意した。教室終了後は必ず、講師と参加者がお茶とおしゃべりを楽しむようにした。また、教室参加者以外にもコーヒーやパンなどをセルフサービス・低料金で提供。朝の安全活動の帰りなどに近所の方や子どもたちが顔を出してくれるようになり、終盤は毎週一日のランチが地域のご婦人たちの自主運営で続けられ多くの来館者を得た。敬老の日イベントの会場にも利用された。

毎月第4土曜日はフリーマーケットの日。多くの方に知ってもらおうと休まず開催した。婦人服や子ども服、クラフトグッズやクッキーなどを持ちよって格安で交換。近隣の田園都市や社員の故郷からの産直、食育講座を兼ねたお手軽料理教室などが人気だった。参加者は100人前後、教室紹介や大学落研、マジッククラブなどの演技を交えてお昼を挟んだ半日を楽しんだ。映画鑑賞会やハイキング、カラオケ版「歌声喫茶」も試みた。環境問題に関心が高い若いお母さんたちのワンディーショップはいつも大盛況で、割り箸やごみ議論も活発。福岡市の段ボールコンポストトライアル講座にも20数名が応募して学んだ。できた堆肥で、皆で育てた花壇。心なしか今もって勢いがいい。



天神山公民館園芸イベント受託

「板付ドリチャン倶楽部」の活動のスタートは、地域環境形成システムや環境系コミュニティビジネスの研究をされていらっしゃる九州大学の近藤加代子先生とと一緒に活動させていたいたご縁が影響している。そしてスタートしてから半年後、ドリチャン倶楽部の園芸教室やフリーマーケット、フローラマーケットなどをご紹介したところ、段ボールコンポスト作りを通して公民館を中心とする地域環境システム形成の一環として、環境PRや住民参加活動の推進を目的とした園芸イベント（ガーデニングの集い）を開催する事を考えられ、板付ドリチャン倶楽部で企画運営を受託する事になった。

会場の天神山公民館の立地する福岡県春日市は、近藤先生、NPO法人循環生活研究所、及び春日市環境対策課の指導・支援により、段ボールコンポストづくりが普及していた。また天神山地区は、高齢の方が防犯活動等に積極的に取り組み、子どもたちとのコミュニケーションや活動も活発な元気な地区であり、堆肥の収集・地域緑化及び活性化への活用といった地域環境システム形成の第2段階を研究することになっていた。そこで、段ボールコンポストづくりの指導スケジュールに合わせて、地域環境形成や堆肥の活用などを皆で話し合うワークショップ、実際に公民館の緑化活動や環境緑化・ガーデニング学習などの園芸イベントを2日間開催することとした。地域の方々に来ていただきて楽しんでいただくために、2日間ともフローラマーケットと園芸教室を開催し、先着順で花苗プレゼントも行った。また、スローフード昼食や健康ドリンクの提供、子ども向け遊び教室など実施した。

公民館の緑化活動のメインは、花壇・プランター・フェンス飾りであった。外観や花苗の種類や並べ方などの花壇のデザインはワークショップで話し合い、皆でつくった段ボールコンポストを肥料に利用した。また、花苗の入れ替えのために皆で種まきを行い、2回目の開催時に、子どもたちと成長を確認した。花壇への花植え、フェンスへハンギングづくりには、多くの方が参加していただいた。参加者の名前も植え込まれ、皆が成長を楽しみにし、水やりを暫くして解散した。



おわりに

思ったより、信頼は得難く、地域は忙しかった

約2年半の試みで地域問題は単純でかつ複雑だと知り、これまで机上での理解であったと反省している。いろいろな学びの中から「目からうろこ」を2つ紹介する。

1つ目は、最後まで、未だに知らない、分からぬといふ人が多かった事。「こういうところがあったの？ 知らなかった。」「何をしているのか。」「宗教団体が勧説・販売だと思って尻込み」「もっと早く知っていたら。」といったお話を伺った。ポスティングは毎月欠かさず、敬老会やもちつき大会等の会場にもしていただいたので、この状況には驚くとともに、地域活動の難しさを感じた。地縁の大切さも身にしました。自治会や町内会とももっとおつきあいをしつつ、施設の内装や外装も明るくするようにしていったらと考えるが、既に過去となってしまった。もつと明確な事業内容・事業方針を持っていなければいけなかったと思っている。

2つ目は、地域の人が案外忙しいと知った事だ。団塊世代のリタイヤ対応、高齢者の健康づくり、若い母親のストレス解消などのニーズが結構有ると思ったが、子供会やスポーツ活動等の行事で忙しくてなかなか当方に振り向いてくれない。70歳前後の女性の手帳のカレンダーがぎっしりつまっているのに驚いた。一方、元気な人が参加者だったとも気づいた。独居や引きこもりの方々には、ほとんど支援できなくて残念だった。個人情報保護で所在を公表できない、気軽に支援は頼めないということもあるそうだ。こうした地域福祉システムを変えていくべきだと思った。

かつての風景の復活、再挑戦が夢！

とにもかくにも約2年半。いろいろな人と知り合い、共に遊び、十分に楽しんだ。地域の皆様のご愛顧と当方の資金が続く限り継続したいと思っていたが、空ビル退去の運びとなりあえなく解散。一部の教室については近隣の公民館等での継続を進め、サークルとして活動している。

終わってもやっぱり、ご近所の人が一緒にビールを飲みながらプロ野球やプロレスをテレビ観戦を楽しんでいる、駄菓子屋や食堂の玄関先に縁台を出して夕涼みしたり将棋を指しながら子どもたちを見守る風景を夢見ている。公園前食堂が地域の人が行き交うまちづくりの拠点になればいいな。ちゃんとしたご飯が食べられ冠婚葬祭や旅行などのサポートもできるといいな、そういう需要で雇用も生まれてコミュニティビジネスになるといいな、チェーン展開できたら費用も安くなるかななど、どんどん考えが広がっていく。これからは生きる事、暮らしを楽しむ時代だと思う。自分でお金を出して、あるいは企画実施して得る事ができる。幸せを自分たちで生み出す、そういう考え方方がひろがっていくと良いのにと、日々夢見ている次第である。